

令和5年度 第1回 流山市地域包括支援センター及び地域密着型サービス運営協議会 議事録

1 日時

令和5年5月12日 金曜日

14時00分から15時15分まで

2 場所

流山市役所 第2庁舎 301・302会議室

3 出席者

(1) 委員

濱田 竜也 会長、鈴木 麗子 委員、稲田 衣子 委員、鈴木 美智子 委員、立石 八恵 委員、高村 友紀 委員、楠見 洋子 委員、渡辺 恵 委員、櫻井 壽一 委員、岩井 謙詞 委員、池上 諄一 委員、紺野 好美 委員、横山 章子 委員

(全16名中13名出席)

(2) 事務局(市)

伊原健康福祉部長

高齢者支援課 木村課長、武林課長補佐、影山高齢者介護予防係長、石渡主事、白井保健師、耕納保健師、松田保健師

介護支援課 橋本課長、竹之内課長補佐、三宅介護地域支援係長、竹浪主任主事、名城主事、西澤主事

(3) 地域包括支援センター

北部地域包括支援センター 石川 渉センター長

北部西地域包括支援センター 高橋 和美センター長

中部地域包括支援センター 土谷 しのぶセンター長

東部地域包括支援センター 崎尾 直子センター長

南部地域包括支援センター 中尾 陽子センター長

4 議題等

(1) 【報告事項】 令和5年度協議会年間計画(案)、令和5年度第三者評価について

(事務局より説明) 資料3のとおり。

現在、令和6年度からの3年計画である第9期高齢者支援計画を策定中であり、第2回会議では、本計画についてご意見を頂戴する予定。なお、この4回その他、協議事項が生じた際には随時開催していく。

令和5年度に実施する評価対象令和4年度の評価スケジュールについて説明。評価委員については、昨年に引き続き濱田会長、紺野委員、岩井委員、高村委員に加え、塩谷委員に代わり横山委員の5名の方にご協力いただく。

国から通知される「地域包括支援センター運営状況調査票」を用いての自己評価が5～6月に実施される予定。7～8月には、各包括の視察及びセンター長へのヒアリングの実施を検討している。評価委員には日程が決まり次第、連絡をする。8～9月には評価した結果を各地域包括支援センターへフィードバックし、事業の質の向上のために必要な改善方法を検討する。11月に行う第3回運営協議会で、評価委員による「評価のまとめ」と地域包括支援センターによる改善案を報告し、承認を得た後、12月に公表といったスケジュールを予定している。

(委員) 意見なし

(2) 【報告事項】 流山市地域包括支援センターの職員の変更について

(事務局より説明) 資料4のとおり。

(委員) 意見なし

【協議事項】 令和4年度流山市地域包括支援センター事業実績・令和5年度事業計画について

(各地域包括支援センター長より説明) 資料5のとおり。

・事前意見(楠見委員)「研修について、受講したい研修と日程が合わないなどの理由で参加できないこともあるため、YouTube等で期間限定でも視聴できればと思いました。あわせてZoomでの参加継続も検討頂ければと思います。」

(回答) 各包括に聞き取りを行ったところ、今年度は基本的に集合型にて研修等を実施するとのこと。YouTube配信については、現状

では技術的な面で厳しいことに加え、ケアマネジャー交流会の場合、主任ケアマネジャーの資格更新研修を兼ねているため、受講時間の確認が困難である動画配信は難しいとの意見があった。Zoom開催については一部の包括は実施するが、実施しない包括の意見として、会場にwi-fi環境が整備されていないため難しい、グループワーク等の研修内容によっては適さないといった意見があった。引き続き参加者の意見を取り入れつつ、市と包括で協議しながら決めていく。

意見①（鈴木麗子委員）各センターの活動は地域のニーズを踏まえた活動となっており、とても感心した。東部地域包括支援センターの活動について質問。坂が多く、公共交通機関が少ない地域のため、家に閉じこもってしまっている方も多くいる状況の中、今年の活動の中で福祉有償運送ボランティアに取り組んだとの報告があった。これはどんな支援をすることを想定して募集をかけたのか。

（東部地域包括支援センター 崎尾センター長）

東部は交通の便が悪いという特徴があり、最初に地域の人々に現状を聞いた。まずは地域の中で助け合いができないかということで話し合いがスタートした。しかし、法的な問題があったりし、地域住民の中でやっていくのは難しいと判断した。当初は、通いの場に行くための手段を住民の中でどうにかできないか検討していたが、それ以外にも通院や買い物等、日常生活の移動に困っているという意見が出た。それであれば、元々市が実施している福祉有償運送サービスをうまく活用できないかと考え、それを担えるボランティアを募集することにした。

意見②（櫻井委員）各センターからの報告を受けたが、どれも内容が素晴らしく、これからのことをよく考えて作られていると思う。土谷センター長の説明にもあったが、認知症患者は発見しづらいが、いくらでもいる。近い将来5人に1人が認知症になると言われているデータもある。こういった認知症患者に対して子供や孫が虐待しているという話を度々耳にするが、専門家などを招き、勉強会などを通じて心理学的な面からのケアはできないか。また、自宅で訪問介護を受けている方にはわがままな方も多く、対応に苦慮しているかと思う。そういった方々に対し、勉強会などをもっと開催し、サポートしてはどうか。

（濱田会長）認知症サポーターの養成講座がそれに近いと思う。実際に様々な個別的な問題があり、スクリーニングには各地域包括支援センターも苦勞している部分かと思う。もちろん、地域包括支援センターが役割を担うことが重要だが、地域包括ケアシステムを構築していくという点では、地域福祉計画といった、行政の役割も重要である。

意見③（鈴木美智子委員）我々流山ユー・アイネットもヘルパー派遣を行っており、櫻井委員の意見のとおり、わがままな利用者はいる。しかし、訪問介護に携わっているヘルパー、ケアマネ、事業所、それぞれ困っていることがあれば、協力して対応していると認識している。

（濱田会長）地域包括支援センターの業務は多様化および複雑化している現状がある。昨日、千葉県においても地震速報があり、木更津では震度5強を観測した。北部地域包括では重点目標にBCP策定を盛り込んでいたが、今後、介護事業者はBCPの策定が義務化される。コロナ対策が落ち着き、災害対策が間近にせまっている。要配慮避難者の把握は行政がしていると思うが、地域包括支援センターと行政が連携して取り組んでほしい。

（3）【協議事項】指定地域密着型サービス事業所の指定更新について
（事務局より説明）資料6のとおり。

（委員）意見なし

4 その他

次回の運営協議会は、令和5年8月7日（月）午後2時から市役所第2庁舎301・302会議室にて開催予定。